

小学部のまとめと考察

小学部の児童は、養護学校に於ける入門期で、しかも精神的に未発達な子供達である。この子供達にとって、豊かな心、たくましい行動というのは、まず毎日が明るく生き生きと生活できることである。本紀要に取り上げられた6人の児童に関する実践例は、主として生活単元学習に於けるものである。この中で少しでも主体的に行動しようとする気力を促しながらそれぞれの発達の課題にせまっていく事例である。本年度の個に視点を当てたという立場から考えてみると、子供達の心的なもの、その現れとしての行動的な現象に重点がいったと思われる。今後はもっと障害についての心理学的、医学的な面からの考察をふまえた養護・訓練的な指導を多く取り入れる必要があると考えられる。年々個人カルテ（学校全員の児童生徒分が作成されている）が充実してきており、次年は総合的に個々の児童を検討することがよりの確になってきて、養護・訓練的な面からアプローチも本格的になっていくと思われる。

個の指導に視点を当てて指導を進めていくと、改めて集団で指導することの大切さが認識された。前回、合同学習という集団の扱いを実践して個の指導の大切さに行きついたように、ここで双方のかわり合う力の大切さを認識した次第である。

（小学部主事）